

シン・研修報告書 富山県医療ソーシャルワーカー協会



令和5年度 初任者研修会

令和5年9月23日(土)

医療ソーシャルワーカーの役割について」

講師 木村 多佳子 氏
福井県立大学 看護福祉学部
社会福祉学科 助教

研修会の感想

アルペンリハビリテーション病院 長谷英寿さん

日々、医療ソーシャルワーカーとして業務に向き合っているが、自分たちは何を行う立場なのかの再確認として、『医療ソーシャルワーカー業務指針』に沿って説明があった。「患者」の起点は医療ニーズであるが、治療と併せ、人生や生活の変化に伴う不安、元の生活に近づけるための課題など、それらの解決も付随してくる。つまり身体的、心理的、社会的な複合したニーズに対して援助を進めることが必要となる。多職種で関わるための入り口として、本人・家族から、信頼関係を土台として主訴の聞き取りが大切であり、どのような治療を選択するか「自己決定」と、その判断を適切に行うための「権利擁護」が求められる。そうしたソーシャルワーカーとして留意しておかなくてはならない心構えについて、詳しく話を聞くことができた。

そして医療ソーシャルワーカーの役割を各々で文章化してみた上で、グループに分かれ、「共通するワード」と「大切にしたいこと」が何であるのかを整理した。自分は医療ソーシャルワーカーとしての経験が浅いため、他の経験のある参加者からの言葉であったり、急性期と回復期で患者様に向き合う姿勢に差が生じるのかなど話を聞くことができ、示唆に満ちた時間であった。

また木村先生からは、業務において生じる様々な気持ちを吐露できる仲間を、職場の外にもつくるのが望ましいとの言葉もあった。今回の研修はコロナの緩和に伴い、久しぶりに対面で行った研修とのことであったが、顔を合わせて話すことで、連携の図りやすさに繋がり、必要時に声を掛けやすくなる。そういった繋がりを多く持つことができるよう、研修等の機会を積極的に利用していきたいと思う。

研修会の様子



参加者の声



日々業務に追われる中で、MSWについて考えることができていなかった。
改めて役割や専門性について振り返ることができた。

MSWの役割について日々悩んでいることがあったが、
まずは業務指針など自己で振り返り、先輩に相談していきたいと思った。

同世代のMSWがいる存在感や安心感

広報事業部の
一言つぶやき

医療機関では医療や看護が大きな力を持ち、時としてそちらのほうの見立てが優先される場合があります。
医療機関に身を置く立場としては当然のことなのかもしれません。
しかし、そのような実践現場の中で**当事者を生活者として捉え、当事者の自己決定を支えていくためにはどうすればよいかをみんなで考える研修であったのではないかと長谷さんの感想を読んで思いました。**
参加されたみなさんは、学んだことを職場内や仲間にまたフィードバックしてもらえればと思います。
感想を提供していただいた長谷さん、ありがとうございました。